

ウ)空港利用車両によるロードキル等

事業実施区域周辺において確認された陸上動物のうち、移動能力が低いものは鳥類ではミフウズラ、リュウキュウヒクイナの2種、爬虫類ではセマルハコガメ、キシノウエトカゲ、サキシマアオヘビ、サキシマバイカダの4種、甲殻類オカヤドカリ、オオナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、ヤシガニの6種、合計12種である。

これら12種の重要な種の確認地点を図-6.9.2(42)に示す。県道新川白保線や国道390号付替予定地周辺において確認されたのは、サキシマアオヘビ、リュウキュウヒクイナ、オカヤドカリ、ヤシガニの4種であり、サキシマアオヘビ・オカヤドカリ・ヤシガニについては側溝への転落死及び交通量の増加による轢死などのロードキルが発生するおそれがある。また、リュウキュウヒクイナについても交通量の増加による轢死などのロードキルが発生するおそれがある。

ただし、現況においてはこれらの重要な種のロードキルは確認されていないものの、数個体程度が減少するおそれがある。また、側溝への転落死については、供用後は現況の国道390号と同様に蓋付きの側溝が設置されることから、新たな影響が生じるものではないものと予測される。

